

## グループ会社と一体となった業務委託の拡大について 提案を受ける！

### 提案内容

グループ会社との役割分担の見直しにより水平分業を実効化するため、秋田総合車両センターの「台車検修業務」「輪軸検修業務」「弱電部品検修業務」を以下のとおり委託を拡大する。

1. 実施時期 2022年4月1日
2. 委託する業務 (1) 台車検修業務  
(2) 輪軸検修業務  
(3) 弱電部品検修業務
3. 委託先会社 JR 東日本テクノロジー株式会社 (JRTM) へ業務を委託する。
4. その他 (1) 業務委託に向けた準備等を行う。  
(2) 要員体制については、別途お知らせする。

### 施策

- ・「変革2027」にもあるように、グループ会社との役割分担を見直し、水平分業を行うことが目的。
- ・現行の保全科4組、5組が全て委託となるイメージ。
- ・委託する業務に減速機も含む。
- ・1組の材料については委託にならない。
- ・支給材はJR 本体、業務材はグループ会社が発注する。
- ・南秋田センターに委託対象となる業務はない。
- ・委託した業務についての監督は、保全科で行う。
- ・本体に残る業務としては、支給材発注と監督業務。
- ・車両管理システムへのデータの輸入は本体で行ったもの、グループ会社が行ったものそれぞれが入力する。PCの貸与を検討している。
- ・付帯する細かい業務については調整中。そのため要員についても別途提案する。

### 出向

### 出向が前提ではない！

- ・出向が前提ではない。
- ・基本的にはプロパーが業務を担う。
- ・JRTM の受け入れ準備が整うので業務委託するが、全ての業務をプロパーだけ担うわけではない。任用の基準に則って出向はありえる。出向期間はこれまでと変わらない。
- ・定例の面談の他に、出向が発生するとなれば、面談で個人把握していく。
- ・出向を後ろ向きに捉えていただきたくない。技術継承やグループ会社から学び社員としての成長していくことも重要。出向となれば管理者からもそうした主旨を伝えていく。

### 教育 環境

- (組合) 本体として技術継承、教育する場は残っていくのか。
- (会社) グループ会社に赴くことや、南秋田センターにおいても教育していくことが出来ると考えてある。教育の必要性は今後も変わらない。新入社員に関しては、基礎的な部分はJRTMで、現車に関することは南秋田センターで教育を行う。内燃科に関しては若い社員にも出向してもらい、知識・技術は上がっていると認識している。今後、その経験を活かして管理業務を行なってもらいたい。
- (組合) 本体での検修業務は無くなっていく中で、技能競技会は現行の体制のまま開催していくのか。
- (会社) 現行も南秋田センターでも出場している。本人の意思で出場し、どの競技に出場するのかについても本人が選択する。業務委託をするにあたり、JRTM への教育内容についてはこれから詰めていく。抜けがないように教育を実施していく。
- (会社) 将来的な検修業務は「車両管理と鉄道事業者としての管理業務」である。

**本体に技術を残していくべきだ！**

- ・作業場、詰所などはこれまでと変わらない。
- ・総車セ、南秋田センターの体制はしばらく続くと考えている。

**車両の安全を守り、  
技術を確実に継承でき  
る施策にするために**

**議論を深めよう！**

